

# 大高台遺跡

(おおたかだいせき)

所在地：高萩市赤浜 1883-4 番地ほか  
調査期間：平成 31 年 1 月 1 日～令和元年 8 月 31 日  
調査面積：8,640 m<sup>2</sup>  
委託者：茨城県高萩工事事務所  
調査原因：県道高萩塙線バイパス建設事業  
調査機関：公益財団法人茨城県教育財団(高萩事務所)  
Tel.029-225-6587 <http://www.ibaraki-maibun.org>

## 遺跡の立地

大高台遺跡は高萩市の北部に位置し、関根川左岸の標高約45mの台地上に立地しています。県道高萩塙線バイパス建設事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、平成30年度から令和元年度にかけて8,640 m<sup>2</sup>の範囲の調査を行っています。

## 調査の成果

今回の調査では、弥生時代から平安時代の集落跡や、中世の建物跡や道路跡などを確認しました。

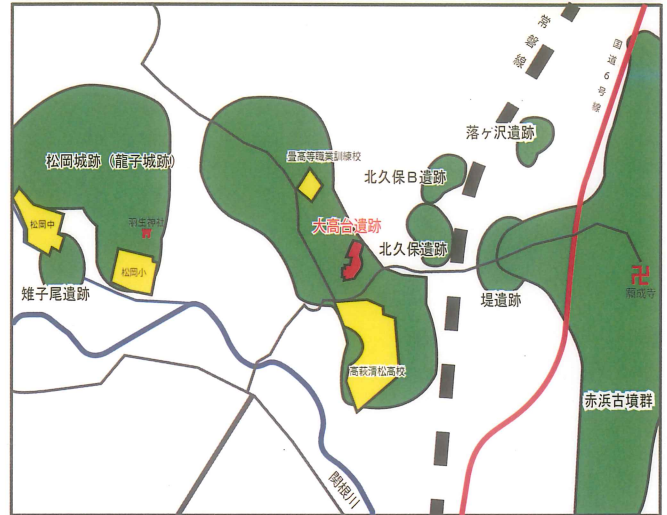
古墳時代の住居跡は、前期(約1,700年前)7棟、後期(約1,500年前)2棟を確認しました。前期の住居跡からは、弥生時代後期の土器も伴って出土しており、弥生時代から古墳時代へ変わる時期に存在した集落と考えられます。

奈良時代から平安時代にかけて(約1,200～1,300年前)は、住居跡23棟を確認しました。古代の役人が身につけていた石製の腰帯具(ようたいぐ)や転用硯、墨書土器が出土しており、文字を読み書きできる僧侶や役人などの存在、寺院や役所などが付近にあった様子を想定することができます。

中世の遺構は、掘立柱建物跡40棟、道路跡1条、方形竪穴遺構約9基、墓坑3基、火葬土坑1基などを確認しました。

掘立柱建物跡のなかには、柱を立てるために柱穴の底に石を据え付けているものもあります。3間×3間のお堂と思われる建物跡などがあることから、日弁聖人ゆかりの寺院施設と考えられます。

道路跡は幅約2mで、北側に側溝跡があり、7回の掘り直しをしており、長期間使用されていたと思われます。



大高台遺跡周辺の遺跡

(「いばらきデジタルまっぷ」から)



調査区全景(垂直方向から)



方形竪穴遺構から出土した「榿(けん)」



②  
第7号竪穴住居跡  
遺物出土状況(奈良時代)



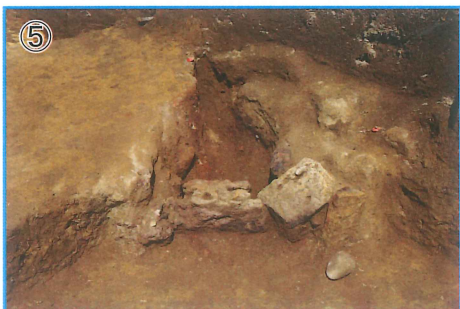
③  
第12号竪穴住居跡から出土した  
ミニチュア土器



④  
第31号竪穴住居跡  
竈の周りから出土した遺物



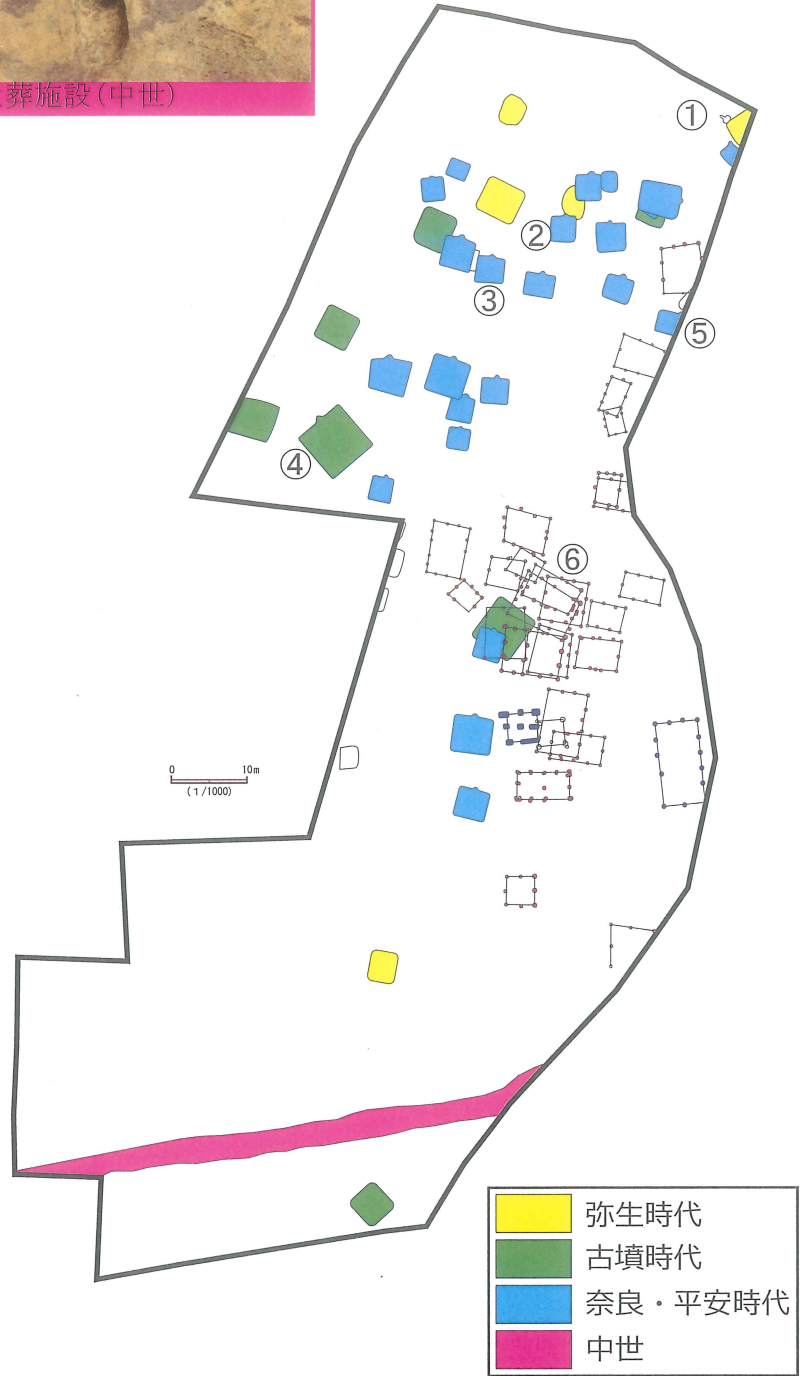
第31号竪穴住居跡  
竈の完掘状況



⑤  
竈の補強材と支脚が確認できた  
第23号竪穴住居跡の竈



①  
T字状の火葬施設(中世)



⑥  
礎板が出土した  
第17号掘立柱建物跡



重なり合って出土した礎板